

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 2 号

作物名 水稻
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂後収穫期まで
- 3 発生量 平年比多い
- 4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は63.3%
(平年比やや多い)、平均虫数は26.2頭(平年比多い)であった(表1)。主要な発生種は、アカスジカスミカメ(写真1)、クモヘリカメムシ(写真2)、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシであった。特にアカスジカスミカメが多く捕獲された。今後、これらのカメムシ類が出穂後水田に侵入することが懸念される。
- (2) 7月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は6.7%
(平年比やや少ない)、平均虫数は0.2頭(平年並)であったが、山城及び丹後地域での発生は平年比やや多かった(表2)。主要な発生種は、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ及びトゲシラホシカメムシであった。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数(6月第1～7月第4半旬までの合計値)は、京田辺市で31頭(平年:27.6頭)、亀岡市で17頭(平年:45.0頭)で平年並、京丹後市で42頭(平年:84.8頭)で平年比やや少なかった。アカスジカスミカメの予察灯への誘殺数(同上)は、京田辺市で10頭(平年:3.0頭)、亀岡市で84頭(平年:34.7頭)で平年比多く、京丹後市で110頭(平年:100.4頭)で平年並。



写真1 アカスジカスミカメ成虫



写真2 クモヘリカメムシ成虫

表1 斑点米カメムシ類調査結果（7月第3半旬：畦畔20回振りすくい取り調査）

	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数
30年	83.3	99.7	44.4	2.9	83.3	2.5	55.6	16.2	63.3	26.2
平年比	並	多	並	並	多	やや多	やや多	多	やや多	多
	やや多		並		やや多		多		多	
平年	75.7	24.1	42.8	3.0	52.4	2.4	38.8	3.9	50.1	7.4
29年	83.3	50.8	66.7	5.4	66.7	1.0	44.4	14.4	63.3	16.3
28年	50.0	7.2	44.4	2.7	16.7	0.2	22.2	1.7	33.3	2.8
27年	83.3	11.2	33.3	1.7	66.7	0.7	11.1	0.1	43.3	2.9
26年	50.0	6.8	77.8	1.2	66.7	8.3	44.4	1.4	60.0	3.8
25年	100.0	35.8	44.4	4.2	66.7	1.2	66.7	4.7	66.7	10.1

* 虫数は、1ほ場当たりの平均値。

表2 斑点米カメムシ類調査結果（7月第3半旬：本田20回振りすくい取り調査）

	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認ほ場率	虫数								
30年	16.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
平年比	並	やや多	並	並	並	並	並	やや多	やや少	並
	やや多		並		並		やや多		並	
平年	21.2	0.4	12.0	0.3	12.9	0.2	8.8	0.1	13.1	0.2
29年	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.3	0.0	0.0	6.7	0.1
28年	16.7	0.2	11.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.1
27年	16.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
26年	16.7	0.2	44.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.3
25年	33.3	1.2	0.0	0.0	33.3	0.5	11.1	0.3	16.7	0.4

* 虫数は、1ほ場当たりの平均値。

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを行うことが有効である。草刈りは、イネが出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的である。作業の都合上、1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる。

出穂期に近づきすぎてから行うと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。

(3) ミナミアオカメムシ及びイネカメムシの発生に注意

平成22年に、府内で初めてミナミアオカメムシ（写真3）の発生を確認した。

平成29年までに山城地域と丹波地域の一部で本種の発生を認めている。また、近年イネカメムシ（写真4）の発生も目立っている。これらのカメムシは、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので発生に注意する。



写真3 ミナミアオカメムシ成虫



写真4 イネカメムシ成虫